

「したびらめ類」の資源調査

【背景・目的・成果】

瀬戸内海で漁獲される「したびらめ類」には、クロウシノシタ、イヌノシタ、コウライアカシタビラメ、アカシタビラメの4種がありますが、その実態についてはあまり知られていません。近年の漁獲量は減少の傾向にあり、今後、本種資源を管理し、有効に利用していくためには、漁業や生物の情報が重要です。今回は、漁獲統計から見た「したびらめ類」の漁獲動向と「コウライアカシタビラメ」の生物特性を把握しました。

1. 「したびらめ類」の漁獲動向

県内では大阪湾と播磨灘で多く漁獲されています。年間200～300トンほど漁獲されていますが、最近では減少の傾向にあるようです。主に小型底びき網で漁獲されており、主漁期は冬季～春季です。刺網の漁獲量は少ないものの、夏季に漁獲されます。

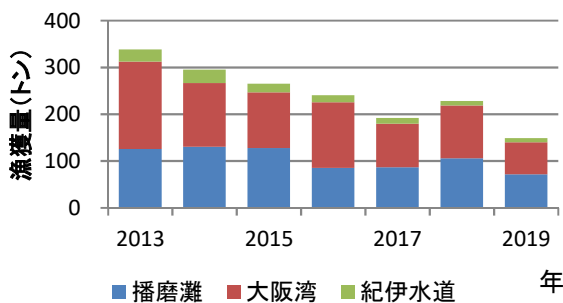


図1 海域別漁獲量の年変化

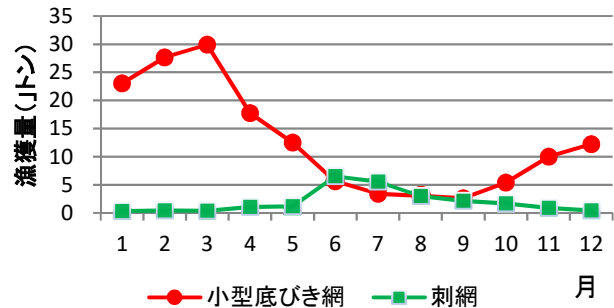


図2 漁法別漁獲量の月変化

2. コウライアカシタビラメの生物特性

- ・コウライアカシタビラメの耳石から年齢を調べた結果、雌雄とも6歳位まで漁獲されていました。
- ・雄は30cm程度にしか大きくなりませんが、雌は40cm以上に成長します。
- ・雄は全長25cm以上、雌は全長30cm以上で多くの個体が成熟し、繁殖に関与します。なお産卵期は冬から春にあります。

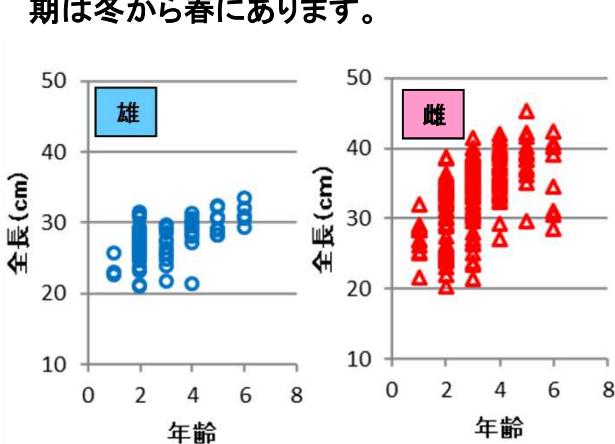


図3 年齢と全長の関係

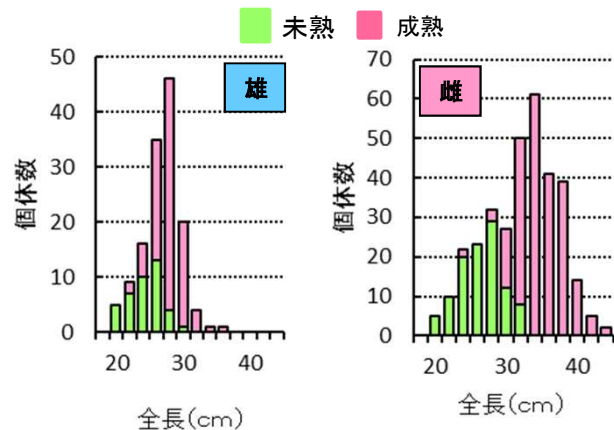


図4 全長と成熟の状況

【技術の活用】

得られた「したびらめ類」の漁業情報や生物情報をもとに、資源を継続的かつ有効に利用するための管理手法を検討していく予定です。

